



うみつばめ

夏の炎天下や雨風にも負けず、

微笑むように咲く ど根性 ニチニチソウ 日々草

— 当院リハビリ室外にて —

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、住民の立場にたち住民の健康、福祉、安全の向上に貢献します。

基本方針

1. 私たちは、患者さまの心（心身）の痛みと共に、やさしさと思いやりのある医療を目指します。
2. 患者さまの医学的情報について、十分な説明を行い、理解と納得に基づいた医療の実践を行うとともに、個人情報の保護に努めます。
3. すべての職員が連携して、患者さまの満足と信頼が得られる医療の実践に努めます。
4. つねに医療の安全に関する知識と技術の向上に努めます。
5. 地域の医療、保健、福祉、介護との連携強化に努め、地域に開かれた病院を目指します。
6. つねにコスト意識をもって業務の効率化と能率化を図り、健全運営に必要な財政基盤確保に努めます。



「医療職を目指す子ども達へ伝えたいこと」

串本町病院事業管理者 竹村 司

子どもは、驚くべき自然現象に遭遇した時やすごいことができる人に出会った時、「自分も将来はこんなことを学びたい、こんな人になりたい」といった漠然とした将来の自分の姿のイメージを持ち始めます。将来、医師に、看護師に、また患者さまとかかわる仕事をしたいと考えている子ども達に伝えたいことがあります。子どもの目線からすれば、医師は花形の仕事と映っていることに間違いはないと思います。しかし、患者さまが健康を取り戻し、再び笑顔で社会に戻ってゆかれる過程には、医師のみの力では達成できないことがほとんどです。医師は病気の治療法を患者とよく相談し、よりよい方法と考えられるオプションを提供します。それを受け入れ患者さまは治療に入ります。闘病中には、看護師さんからの暖かい看護、栄養士さんが作る温かくておいしい食事、ふわふわの気持ちの良いベッドを用意してくださる人、痛みが少ない検査など、苦痛の少ない入院環境の整備が必要です。これを作ってゆくことが「チーム医療」と言われるものです。



● 3本の矢

昔話に「3本の矢」というものがあります。このお話は、毛利元就が3人の子供たちに、「矢1本なら1人の力で折ることができるが、3本となったときはなかなか折れない。このように3人が力を合わせなければいけない」と教えたという有名な話です。このお話しの教訓から、医療現場に携わるそれぞれの職業を持つ人間が、力を合わせて患者さまの治療に努力すると、その成果は2倍にも3倍にも大きくなるのです。患者のことを英語で「Patient=ペイシエント」と言います。Patienceはその名詞ですが、その意味は「我慢すること、耐えること」の意味を持ちます。患者は、体の痛みだけでなく、心の痛みも併せ持ちます。病院のことを英語で「Hospital=ホスピタル」と言います。その語源は、「お・も・て・な・し」というところからきています。すなわち、我慢する人に、おもてなしをすることが病院の基本的な役割です。患者さまに、「病気を治すのだから少々痛いことは我慢しなさい」とか「治療を決めるのは医師だから、あなたは黙っておいてください」などと考えるのはもっての外だと思ってください。患者とは水平で同一な目線で接し、患者さまの辛さを共有するといった気持ちが大切です。



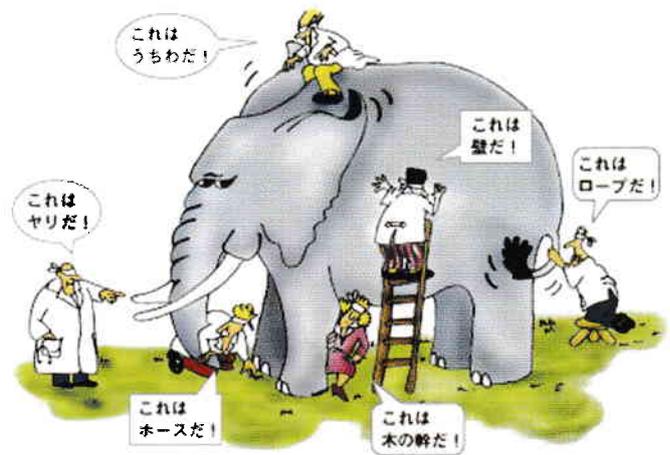
● 医業は聖職である

その言葉は、キリスト教の新約聖書からも分かります。キリストは、「病気を治す力」を、特別な恵みが与えられた人の1つにあげています。また仏教での薬師如来とは、「除病安楽、息災離苦などの誓願をお願いし、生あるすべてのものを救っていただく」という仏様です。このことから分かるように、医業に携わる人間は、それを聖職と考え、常に患者さまの苦しみを理解し、私欲を捨てて治療に取り組まなくてはいけないということを示しています。「チーム医療」の中で、それぞれの持ち場をしっかりと守り、またそれぞれの職種の人達を尊敬しながら仕事をするのが、よい医療を提供するためのもっとも大切なところですよ。



● 群盲象を評す

ここでいう盲人とは目の不自由な方を指すものではありません。実際に目が見えないことを意味するのではなく、物事の本質に対する見識がない人ことを指します。近年、医学は飛躍的に進歩を遂げ、平均寿命の延長、難病の克服に多大な貢献をしてきたことには間違いはありません。しかし忘れてはならないことは、医療職の仕事の対象は「全人的な人間」であるということです。機械の故障のようにパーツだけを取り換えれば良い（＝病気の部分さえ治せばよい）といった考えは通用



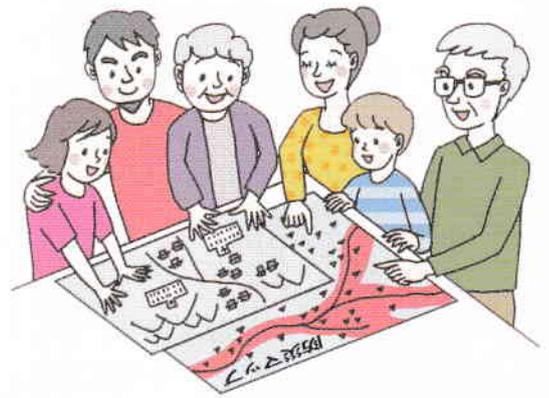
しません。それぞれの臓器や器官の「専門バカ」と揶揄されるような視野の狭い者が多く集まり、各々の観点から勝手なことを述べ、結果として物事の本質（＝患者さまの本当に望むもの）が見失われてしまうことにくれぐれも注意を払わなければなりません。群盲象を評すとは、象（全人的な人）という全体を知らないがために、一部分のみを触ってそれがすべてだと思い込んでしまい、誤った判断をしてしまう人のことを指します。正しいと信じて疑わない自分の考えが、全体ではなく一部についてのものにすぎないということに気が付かず、互いに他の主張を批判してしまうことの虚しさや怖さを理解しておいてください。すべて患者さまの不利益に繋がってしまいます。つまり医療職は、「多種職協働」が当たり前の仕事環境であり、職種に優劣はありません。それぞれの職種が互いに敬意を表しながら、メンバーシップとリーダーシップを兼ね持ち、一人の患者さまの健康を取り戻すことに協力する心を持ってほしいと思います。医療職を目指す子ども達にとっては少し難しいことを書きましたが、私の話も少し頭の片隅に置いて、将来の夢に向かってしっかり体を鍛え、勉学に励んでください。期待しています。



9月1日
は

防災の日

自分で行う災害への備え



従来、風水害の発生する時期は、6月、7月の梅雨期と9月の台風期というのが一般的でしたが、最近では年間を通じて発生しているような状況です。

台風や大雨は大きな災害をもたらしますが、警報などの防災気象情報を利用して、ある程度被害を未然に防ぎ、軽減することが可能です。テレビやラジオなどの気象情報に十分注意し、災害への備えをもう一度確認しましょう。また、避難する場合はハザードマップを参考にしながら災害発生前に余裕を持って行動することが大切です。



当院では、避難場所の一つとして、緊急時一時保護入院を実施しています。台風等の局所的短期災害時において、慢性疾患を持つ患者様が自宅にて十分な療養が受けられず、原病の症状悪化に繋がる可能性がある場合、緊急的に入院を受け入れるという事業です。受入可能となる患者様は、下記条件を満たす必要があります。

患者受け入れ条件

1. 病状を把握している当院に通院中の慢性疾患を有する方
2. 独居であり、訪問看護や訪問介護等の援助がなければ、通常の日常生活が不可能、あるいは著しく阻害されることにより、病状の悪化が予測される場合
3. 気象条件等の悪化により、訪問看護や訪問介護の受託者が、依頼者の自宅を訪問できなくなる可能性がある場合 など

気象が回復し災害の恐れがない、もしくは少なくなり、従来の訪問看護等が再開可能となった時点で退院していただきます。

※病棟の運営状況により、希望に沿えない場合があります。

詳しくは、くしもと町立病院 地域医療連携室 TEL0735-62-7111 までお問合せください。



また、災害発生時は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、危険な場所にいる人は避難することが原則です。自宅が危険な場合は、避難場所だけでなく、安全な親戚や知人宅などに避難することも考えてみましょう。家族の命と健康を守るために、非常時の役割分担・連絡方法・万が一避難が必要になった場合の非常持出品の準備・避難場所の確認等を家族間で話し合い、もしもの時に備えましょう。

【文責：看護部 井土 喬之】

災害時医療対策

近年起こるといわれている南海トラフ巨大地震。多数の負傷者が発生すると予想されているため、県内においても対策の強化が進められています。当院での災害時医療対策をいくつかご紹介します。



衛星通信機器の整備

和歌山県の高速衛星データ通信整備等事業により、県内の災害時に重要な役割を担う医療機関に衛星通信機器（JSAT）を整備しました。これにより災害時、広域災害医療情報システムが利用でき、国や県外のDMAT等への迅速な救助要請が可能となります。



和歌山県ローカルDMAT



「Disaster Medical Assistance Team」とは、災害派遣医療チームのことで、大規模災害発生時に県の要請に基づいて現地に派遣され、被災現場での医療情報の収集や伝達、被災地域の病院支援などにあたります。



当院では和歌山県と周辺地域を活動範囲とするローカルDMATチームを結成しました。メンバーは医師・看護師・業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されており、今後予定している専門的な研修を経て、ローカルDMAT隊員として活動します。

きのくに医療連携システム「青洲リンク」災害時システム

きのくに医療連携システム「青洲リンク」災害時システムとは、電子カルテの必要最低限の情報を災害時の診察に活用するシステムです。県内のデータセンターと災害時に安全と想定される遠隔地のデータセンターに保管、災害時の医療サービスの継続・医療支援を行います。

※災害時システムは、災害が発生した場合のみ稼働します。

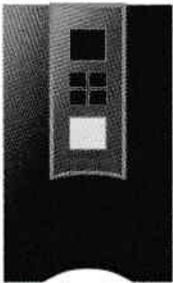
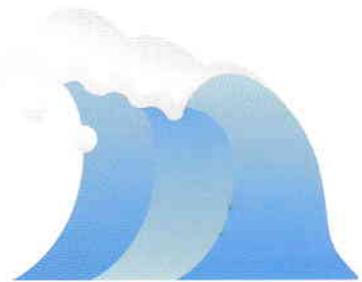
参加医療機関は、県内で病院：10施設、診療所：42施設、歯科診療所：3施設、薬局：112施設



【文責：事務部 橘 秀明】

災害と臨床検査

本州最南端である串本町は、黒潮の影響を受け温暖で台風の影響を受けやすく、また近年起こるといわれている南海トラフ巨大地震では、地震発生から最も早く津波が来る地域といわれています。



災害が発生すると、電気や水道などのライフラインが途絶え、通常の実査ができませんと思われるがちですが、そうではありません。無停電電源装置（UPS）という機械により、地震や落雷によって停電が起きた場合でも瞬時に電気を供給することができます。通常の実家発電のみでは稼働までに数十秒～数分ほど時間がかかりますが、UPSをつなげることによって自家発電が稼働し始めるまでの間、電気を供給します。当院検査部内の主要な装置には全てUPSをつなげており、災害時にも支障をきたさず検査を行うことが可能です。

また、災害時に有用な検査機器の一つに、POCT (point of care testing) があります。

POCTとは、患者さまのそばで行える検査のことをいい、検査方法も簡単で、結果がすぐに得られます。非常にコンパクトで持ち運びしやすいため、日常検査だけでなく災害医療現場においても有用です。災害時はインフルエンザや肺炎、下痢などの感染症が流行する可能性が考えられます。POCTの一つに、検査キットに検体を落として一定時間後に判定するイムノクロマト法という方法があり、とても簡単です。当院は、肺炎球菌やインフルエンザウイルス抗原検査、下痢症の原因であるクロストリジオイデス・ディフィシルの検査、血栓のマーカーであるDダイマー、敗血症のマーカーであるプロカルシトニンの検査など、多くのPOCTキットを導入しています。



【文責：臨床検査部 柿原 芽依】

今年4月に入職した職員を紹介します

臨床検査部

NEW
FACE



臨床検査技師 かきはら めい
柿原 芽依

私は新宮市出身で、地域医療に携われることをうれしく思います。患者様の気持ちに寄り添える検査技師になりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

栄養だより



9月1日は防災の日です。そこで今回は当院の防災食を一部ご紹介します。



当院では普通食、軟菜食（全粥）、ミキサー食の3パターンの食事を3日分備蓄しています。（入院患者様130名分）

【内容】

米飯、サバの味噌煮、野菜ジュース、お茶

食料・水の備蓄は最低3日分を

食料) 人数 × 3日分 水) 3L × 人数 × 3日分

(内閣府の南海トラフ巨大地震対策の報告書では、
1週間以上が理想とされています。)

乳児や高齢者など普通食が食べられない人がいるご家庭では、その人に合った食事の備蓄もしましょう。

東日本大震災で被災者が困ったこと

1. 停電
2. 断水
3. 燃料不足
(ガソリン、灯油など)
4. 食料不足
5. 電話回線の遮断



長期保存できる液体ミルク



市販の介護食



【文責：栄養部 土井 麻緒】

TOPIC

管理栄養士のユニフォームが変わりました！

当院では、それぞれの患者さんに合わせた栄養管理を行っています。食事内容の調整や栄養指導はもちろん、チーム活動にも積極的に参加し、円滑にリハビリを進めていけるよう努力しています。近年、管理栄養士の病棟での活動を期待されることが多くなっているため、動きやすさを重視した半袖ユニフォームで、より一層活躍していきたいと思っております。

食事についてのお悩みがあれば、紺色のユニフォームを着た管理栄養士に気軽にお声かけください。



当院で生まれた赤ちゃんをご紹介します☆

4月から5月

4月生まれ



辻本 みお 海桜さん

4月生まれ



笹尾 あさひさん

4月生まれ



荒谷 いさ 依沙さん

4月生まれ



舛田 はると 悠汰さん

4月生まれ



仲村 はると 春汰さん

4月生まれ



西中 そら 颯来さん

5月生まれ



大谷 いおり 依織さん

5月生まれ



茶野 うた 海大さん

5月生まれ



東 そま 想真さん

5月生まれ



杉本 つむく 紡久さん

5月生まれ



須藤 るれん 琉恋さん

5月生まれ



大平 がく 楽さん

5月生まれ



西村 ひおみ 陽臣さん

5月生まれ



大竹 しんじ 晋士さん

【保護者の同意を得て掲載】

